

12月定例作業日は、12月16日(土)9時グリーントリム公園集合。

第3土曜日です。第2土曜日12/9は都合の悪い人が多いので第3土曜日になりました。

作業時間の前半は、草刈り、球根植え、剪定、落ち葉集め、清掃など今年の活動の締めをします。後半は、忘年会の代わりに親睦会を現地で行います。親睦会は10時頃から。

雨の場合は12/23(土)に延期します。

平日作業日は、ありません。

良いお年を!!

**1. 11月の定例作業は、アジサイ植樹**

11/11(土)、前日までの“夏日”から一転して、寒さ到来を感じる曇天の朝です。秋なら当り前の気候ですが。参加者11名。

先月のアジサイ25株+6株植樹に続いて、東京都から頂いた50株の残り25株を植えます。場所は、第1広場と第2広場の間の平地の林間です。3本の園路があって、中洲のような草木地在2つあるその西側の平坦な場所に、互いに1~2m離して植えました。掘ってみると、ここも昔河原だったことを物語るように丸っこい大小の石が邪魔します。そこを鶴嘴や鉄の棒で大きい石をほじくり、シャベルや鍬で小石や土を掬い出し、根巻きの倍くらいの穴に腐葉土と黒土を入れて苗を植えました。支柱を立ててピンクのリボンを支柱に巻き付け、草刈りの時に草といっしょに刈られることがないようにしました。その後、水をたっぷり遣りました。

穴掘りで身体の寒さは吹き飛びました。休憩の後、林間に放置されたヒノキの幹や切片をリヤカーに積んで薪割り場脇まで運びました。町内会の美原フェスティバルに多くの来訪者が来るのでケガのないようにするためです。



穴掘り



アジサイ



植樹

2. 11月の平日作業は、ハクモクレン植樹

8月に前会長小作四郎さんの緑化功労者農林水産大臣賞受賞を祝って祝賀会を開きましたが、そのお礼として美原里山に花木を寄贈したいとの小作四郎さんの申し出を頂戴しました。花木はハクモクレン、植樹場所は根がらみ坂公園中央。11/21(火)9時から、13名の会員と小作造園から3人参加。小作造園のショベルカー(小作造園の次男優太郎さん運転)で深さ約1m直径2mの穴掘り、そこに2トンクレーン車で樹高約5mのハクモクレンが運び込まれ、車から降ろして枝を剪定し、木の向き(テーブル位置から見るを正面としました)や垂直を調整して設置しました。根株は直径約1mで、そこに黒土と腐葉土を入れ、水遣り

をし、支柱を立て、看板を立てました。小作四郎さんから祝いの弁当がふるまわれました。



お清め



記念写真



ハクモクレンと看板

なお、全国植樹祭において緑化功労者が表彰されたことはインターネットに載っています。小作四郎さんの受賞者の紹介も公表されています。参考のため、この通信に付録(3頁目)を付けます。

ハクモクレンはモクレン科モクレン属。同じモクレン属のモクレン、コブシ、マグノリア(タイサンボク)などと区別できるのは、落葉高木(～15m)、白い花でがくは花弁と同じ大きさなので花弁が9枚に見える、3～4月の開花で甘い香りがして上を向いていて開花時にはまだ葉芽が開いていないなど。

今も、花芽と葉芽が出ています。冬が終われば春の始まりを華やかな白い花が教えてくれます。

3. チューリップ球根植え

清水亮一さんからチューリップの球根を3籠もらいました。赤と黄色です。11/25(土)役員会の時に3人で入口広場と園路沿いに植えました。途中、小林さん親子とそのお友達4人が通りかかって、手伝ってくれました。子どもらと里山でなぜ小石が多いのかとかチューリップの話しながら植えました。有難い戦力でした。



球根植え手伝い

4. 「はむら市民と産業のまつり 2023」は、のこぎり体験が好評

11/4(土)富士見公園で。今年から、市民と産業がいっしょに集うまつりとなりました。環境保全課の要請で、稲荷緑地の会と共に、テント2張りの下で展示と体験を行いました。参加者8名。関口康太郎係長が企画を引っ張り、とくのこぎり体験が好評でした。美原里山保存会はヒノキでコースター作り、稲荷緑地の会は竹でコップや一輪挿しを作りました。大人・子どもが列をなしていました。



のこぎり体験

5. 美原町内会「美原フェスティバル 2023」が美原里山で

11/19(日)晴天、気温20℃。美原町内会の「美原フェスティバル」は初めての企画です。参加者多数で、特に子どもが多く、皆が楽しみ盛り上がりました。市長・各町内会長・国会議員・都議・市議など来賓も多数来られました。お囃子も賑やかでした。焼きそば・焼き鳥など飲食も長い列をつくり完売でした。催し物では、美原里山保存会担当は輪投げ・ターザンロープでした。輪投げには約200人が参加しました。ターザンロープは多数の子どもが同時に乗ってロープがたわむのトラブルもありました。

これらの様子はTCN多摩ケーブルでも放映されました。



美原フェスティバル
“上から美原を見よう”
(高所作業車)

6. TCN 多摩ケーブルでグリーントリム公園取材されました

三田村りょうのラララで行こう「羽村の公園」で放映されました。DVD録画があります。

「伝えたい東京のみどり 写真コンテスト」募集中

東京緑化推進委員会(緑の募金実施団体)の主催で、応募期間は10/1～2024/1/21。テーマは、①山のみどり、②街のみどり、③緑化活動です。発表は3月下旬。最優秀賞は5万円など。

公園での火気使用

羽村市公園条例では第4条(行為の制限)で、はり紙や物品の販売などと同じく火気を使用することは「許可を受けなければならない」とされています。そこで、許可の基準を土木課に問合せしました。文章化されているわけではないが、次の考え方に依っているとのことでした。

1) 火気使用は原則禁止、2) 火気使用の全責任は当該団体が持つ、3) 防火対策をする(消火器設置、火気はガス、落ち葉等のない場所など)、4) 消防署に連絡する、5) 羽村市が信頼できる団体であること、とのことでした。

美原里山保存会は、「信頼できる団体」であり、他の条件を満たせば実施可能ということでした。令和元年の流しそうめん催しのときの不許可は、グリーントリム公園が落ち葉等散乱し許可できる状態ではなかったということです。

「第73回全国植樹祭」における令和4年度緑化功労者・農林水産大臣賞受賞者の紹介

令和4年度□緑化功労者

農林水産大臣賞



小作 四郎

東京都

氏は、平成24年に、東京都の西部に位置する羽村市内の緑地保全ボランティア団体「美原里山保存会」を設立し、令和3年まで会長を9年間努め、現在も会員として地域の自然環境保護、緑化推進活動に多大な貢献をしている。

美原里山は、羽村市の美原町内にある多摩川沿い産線にあり、約50年前に宅地化から取り残された民有地と市有地の併せて約2.7haの緑地である。当地は永らく管理不十分で草木が繁茂し、犯罪やゴミの不法投棄など、危険で不衛生な場所となっていた。

氏は、町内会長就任中（平成18～22年度）に改善を試みたが、町内会全体としての取組は難しい状況であった。そこで、町内会長を辞したあと、自ら民有地地主と交渉のうえ、発起人として町内有志に呼びかけて「美原里山保存会」を設立した。

氏は、民間企業の社有林駐在員として、育苗、植樹から出材まで一連の業務管理に従事した経験を活かし、チェーンソーや刈払機などを使用した効率的な作業を進め、自ら会員への技術指導も行った。平成25年からは、伐採木を薪、まな板、ベンチなどに

再利用し、廃棄物を減量するとともに、販売資金を緑化活動に全額投入した。また、会員とともに樹木ネームプレートを約200枚自作し取り付けただけでなく、花壇を整備するなど、散策する人々が楽しめる場となるよう尽力した。

こうした緑地整備活動を毎月1～3回、11年続けており、会務や他団体との連携なども含め、会の全活動を中心となって行い、当地を明るく憩いの場として見事によみがえらせた。

同保存会の広報活動として「美原里山通信」を毎月発行し、会の活動などを丁寧に詳しく紹介し続けてきた結果、当初29名だった会員は、会長退任時には70名に増え、活動内容もより幅広いものとなっている。

現在は羽村市と協働協定を締結し、緑地は子供たちの環境教育や、町内近隣住民の親睦の場としても活用されている。

これらの活動の展開は、氏の卓越したリーダーシップによって実現されたものであり、その功績は誠に顕著である。

「第73回 全国植樹祭いわて2023」プログラムより抜粋（注：緑化功労者農林水産大臣賞は全国で3人）
https://syokujusai-iwate2023.jp/imagen/files/1636114740_01.pdf